

1. 日時 : 11月4日(火)16:00-17:30
2. 出席者数 : 180名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 2014年度第2四半期の石油精製販売事業の経常利益が140億円の赤字となったが、どのような要因によるものか？

A. 例年と比べて上期に定期修繕が集中し、一時的な修繕費等が増加した。加えて、夏場の天候不順が想定以上の減販をもたらし、減販影響による精製コストの増加が石油製品マージンの改善を相殺する形となった。引き続き、サプライチェーンの各段階においてコスト削減策を実施することで、収益の改善を図っていきたい。

Q. 戦略投資案件では、金属事業のカセロネスプロジェクトと石油・天然ガス開発事業の英国北海油田プロジェクトの立ち上げが遅延しているが、その理由は？

A. カセロネスプロジェクトについては、一部装置に不具合が見つかり、部品の交換に時間を要した。11月中にフル稼働に到達する様に、鋭意対応中である。英国北海キヌール油田プロジェクトについては、出荷関連設備にかかる大規模補修完了時期の遅れに伴い、生産開始が遅れている。現在、11月中の生産開始を目指しているところである。

Q. 2013年度から2014年度にかけて、収益は厳しい状況にあるが、第2次中期経営計画の目標である経常利益4,000億円の達成は可能か？

A. 第2次中期経営計画を公表した2013年3月と比べ、資源価格や為替等、事業環境に変化があるものの、石油精製販売事業における収益改善に取り組むことにより、既存事業からの収益を安定的に確保し、更に戦略投資からのリターンが予定通り実現すれば、目標の達成は可能であると考えます。

Q. 今回の決算発表において、株主還元方針に変更はあるか？

A. 還元方針に変更はない。既存事業からの収益を安定的に確保し、戦略投資からのリターンの実現が見通された段階で、増配を軸とした株主還元の拡大を図っていく。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。